

「こんにちは！知事です」（平成25年9月12日開催）の概要について

平成25年9月12日（木）、東北町立上北小学校において「こんにちは！知事です」を実施しました。

「こんにちは！知事です」は、知事が小・中学校の皆さんと交流し、将来への期待等について意見交換するものです。

東北町立上北小学校は、平成25年度1校目の訪問となり、当日は6学年児童70名と知事が意見交換を行いました。

【校長挨拶】

三村知事さんは、とても明るい人です。青森県という大きな組織を一つにまとめて、みんなの幸せのために日夜休む間もないくらい頑張っています。

今日は、三村知事さんが、若い皆さんの意見をたくさん吸い上げて青森県に生かすために、上北小学校にお出でいただきました。

知事さんのパワーに負けないように、一生懸命頑張りましょう。

【児童による学校紹介】

この上北小学校がある東北町は、小川原湖をはじめ豊かな自然に囲まれ、農業や漁業が盛んな町です。元々は上北町だったのですが、8年前の2005年に東北町と合併して現在の東北町になりました。

東北町の東部にある小川原湖は青森県で一番大きな湖で、シジミやシラウオ、ワカサギなどがたくさん獲れます。シジミの漁獲高は全国第3位で、シラウオは全国第1位です。また、長芋が採れる量は青森県が全国で第1位ですが、県内ではこの東北町を含む「JAゆうき青森」が一番多く採れます。

7月に行われる湖水祭りの花火大会は有名で、県内各地からお客さんが見に来ています。

次に、この上北小学校について紹介します。

上北小学校は、昭和47年に上野小学校、旧上北小学校、新山小学校の3つの学校が一緒になって



上北小学校としてスタートし、今年で42周年となります。全校児童365名で、約半分の児童がスクールバスで通っています。

全ての教室に電子黒板があり、授業では先生方がこの電子黒板を使っていろいろな資料を見せながら楽しく授業をしています。

特色ある学習活動として、シラウオとワカサギの受精卵を使った出前授業を行っています。また、地域の方をゲストティーチャーに迎え、紫黒米の田植え、稲刈り、餅つき体験などをしたり、機織り、蕎麦打ち体験などを行っています。老人クラブのお年寄りからは、昔遊びを教えてもらったり、一緒にグラウンドゴルフをしています。

6年生になると、進路指導の一環として十和田工業高校へ行き、体験学習をしています。

また、全校児童で校舎の周りにマリーゴールドとサルビアの苗を植える「花いっぱい運動」をしています。

委員会の活動では、リサイクル委員会がアルミ缶やプラタブを集めて車椅子と交換し、老人ホームへ寄贈しています。

朝の挨拶運動では、明るく元気な学校になるように、6年生が中心となり、寒い冬でも玄関前で元気よく挨拶しています。

校舎がだいぶ古くなってきたので、早く新しい校舎ができればいいなと思っていますが、みんなこの学校が大好きです。

知事

とてもいい学校紹介をしてくれました。ありがとうございました。

今日のお昼の給食では、野菜を食べましたか。にんじん、キャベツ、ピーマンなど、この地域ではたくさんの種類の野菜が採れます。ピーマンやごぼうも、とてもおいしいです。この辺りは、青森県の中でもおいしい野菜を作っている地域なので、野菜もたくさん食べてください。

【知事に質問、意見交換】

児童1

十和田湖の観光客が減ってきて、お土産店やホテルが半分くらいつぶれてきているそうですが、浅虫水族館や航空科学館のように遊覧船の年間パスポートを3千円くらいで安く作れば、十和田湖に何度も足を運ぶ地元の観光客が増えて、売り上げが増えると思います。

また、青森県出身の有名人もたくさんいるので、その人たちに青森県のPRをたくさんしてもらえ

ば、観光客が増えると思うのですが、三村知事は今後の青森県の観光について、どのようにお考えですか。

知事

7年後の2020年に、東京でオリンピックが開催されることが決まりましたが、私が小学生の時にも東京オリンピックが開催されました。当時、オリンピックの聖火ランナーが国道4号を走るというので、旧百石町にある自宅からわざわざ見に行き、その様子を絵に描きました。そうしたら、その絵で新聞社のコンクールの賞を取ることができました。オリンピックが開催されることになって、本当に良かったと思っています。今、皆さんは6年生なので、7年後だと19歳ぐらいになりますが、皆さんの中から、オリンピック選手が出てくれることを大いに期待しています。

皆さん、青森県にとって大事な産業は何か分かりますか。もちろん、農業などこれまで取り組んできた産業も大事ですが、これから青森県を元気にしていくためには、「アグリ」、「ライフ」、「グリーン」という取組が大事になると考えています。



「アグリ」は、農業や食産業などで青森県を元気にしていく取組です。「ライフ」は、医療機器を開発したり、健康食品を作るといった取組です。例えば、現在、プロテオグリカンという本県発の有望な機能性素材で商品開発を進めています。「グリーン」は、再生可能エネルギーや環境を守るための仕組みで産業を振興していくといった取組です。

そして、もう1つが「観光国際戦略」です。これから、青森県をもっと元気にするために、この4つの取組に力を入れていきたいと思っています。

東日本大震災の影響で観光客が減少し、その後、国内のお客さんは戻ってきましたが、海外のお客さんはまだ7割ぐらいしか戻っていません。そこで、世界中のお客さんに来てもらうための「観光国際戦略」を考えています。

また、青森県に観光客が来てもらうだけでなく、青森のリンゴや鯖の缶詰などのように、青森で作った物を海外に売っていくことも考えています。観光と物販を一体的に捉えて、国内外にPRしていく必要があります。

遊覧船の年間パスポートがあったらいいのではないかとありますが、十和田湖観光汽船では、すでに、年会費3千円の「十和田湖遊覧船ラブ・サポートクラブ」という年間パスポートを作ってい

ます。私も含め上北郡に住んでいる人たちは、遠足などで、奥入瀬溪流沿いを歩いて遊覧船に乗ることがありますが、県内の人がみんな、そういうわけではありません。

例えば、東北町の長芋、小川原湖のシジミやワカサギなど、ここで生産したり採れたものは、ここで消費するという地産地消の考え方がありますが、観光もそれと同じで、まずは、青森の人が県内の観光地を歩いて回ることが大事だと思っています。

奥入瀬溪流や十和田湖には、外国の方がたくさん来ていますが、十和田湖畔にある十和田神社には占い場があり、パワースポットとして紹介されています。この十和田神社の占い場やむつ市の恐山のようなパワースポットに行くと、不思議なことに力がもらえると言われていています。また、青森県には、キリストの墓などのような神秘的な場所があります。

このようなパワースポットや神秘的な場所を特集した冊子を作って全国に紹介することで、もっとたくさんのお客さんに来てもらうための取組をしています。

青森県出身の有名人にも、青森県のことを宣伝してもらっていますが、今度、元高見盛の振分親方と一緒に観光キャンペーンをすること



になっています。このように、青森県を元気にするために、観光も頑張っていきたいと思っています。

皆さんも、ぜひ、お父さんやお母さんに、キリストの墓に行ってみたい、県内のパワースポットに行きたいとお願いして、観光の地産地消に協力してほしいと思います。

地元から青森県を元気にしていくことが大事ですので、よろしくをお願いします。

児童2

除雪費用が毎年たくさんかかっているというニュースを目にしますが、除雪費用を減らすために、「除雪の日」を作って、地区ごとに協力して除雪をしてもらうようにすると、除雪費を少し減らすことができると思うのですが可能でしょうか。

また、雪を捨てる場所が少なく困っている地区が多いので、県内各地に雪を捨てる排水溝をつくることは可能ですか。

知事

とてもいい話がありました。私は、昔、百石町というところで町長をしていました。百石町で除雪

費が一番少なかった時は、いくらぐらいの金額だったと思いますか。実は、自分でも驚きましたが、200万円でした。百石町の方はあまり雪が積りません。降っても箒で掃けるような軽い雪です。しかし、知事になって津軽地方に行ったら驚いてしまいました。除雪した雪が積もって車道と歩道の区別がつかなくなってしまい、道路の両側が雪の壁になるぐらい積ります。

青森県では、冬は、大陸からの冷たい湿気のある風が八甲田山系の山にぶつかって、西側でよく大雪になります。

除雪に一番多く費用がかかった時は、県と市町村の除雪費を足して140億円ぐらいになりました。この金額は、東北町の予算規模と同じぐらいだと思います。たいへん多くの金額が除雪にかかりましたが、それでも除雪が足りないと言われました。



みんなで雪かきをする「除雪の日」を作ったらどうですかという話がありましたが、「スクラム除雪」といって、県が除雪の機械を貸して、町内会やPTAの方々に歩道の除雪をしてもらっています。

また、流雪溝を整備することも大事です。市街地から整備を進めていますが、青森県は広いため全部整備するのは難しい状況なので、除雪の方が比較的簡単です。

今日は、上北地域県民局長さんが来ています。青森県には、6つの地域にそれぞれ県民局という組織があり、局長さんは知事に代わってその地域の問題を聞いて解決しています。上北地域県民局の局長さんは、県の土木関係の仕事に長い間携わってきたので、除雪には詳しいです。

上北地域県民局長

今、知事がお話したように、県と市町村の除雪費を足して140億円ぐらい使ったことがあります。そのため、地区ごとに日を決めて「除雪の日」を作れば良いのではないかということですが、「除雪の日」ができれば本当に助かります。

しかし、県では、道路の除雪をしています、その地域の人たちに道路の除雪をお願いすることになれば、大きな機械も必要になり、車も通っていて危険ですので、ちょっと難しいと思います。

先ほど、知事がお話したとおり、「スクラム除雪」とは、歩道の除雪を地域の人たちに協力してもらって行うという取組です。県が除雪の機械を貸して、地域の住民に歩道の除雪をもらうというように、県と住民が協力してスクラムを組んで行うものです。歩道の除雪をしたいという話がありま

したら、県民局や県庁に相談してもらえればと思います。

それから、流雪溝があれば本当に便利です。私は青森市に住んでいますが、自宅の前に流雪溝があって毎朝水が流れてくるので、流雪溝に雪を捨てています。

流雪溝を設置するための条件として、近くに川や海などの水が確保できないと利用できません。また、流雪溝を作っても利用してくれないと困ります。高齢化が進んでお年寄りの方が増えてきて、流雪溝があってもなかなか使ってもらえないという状況になっています。この頃、子どもが雪かきする姿も見なくなったので、雪かきをしてお手伝いしてもらえれば、地域のためにもなると思います。家の前の雪かきをするだけでも、体も丈夫になるし、足腰も強くなります。

知事

局長さんは、道路を造ったり、津波を防ぐために防潮堤を造ったり、皆さんの安全安心のために一生懸命働いています。県民局は十和田市にありますので、何か問題があったら県民局に教えてくれればありがたいです。

児童3

青森県にはいい食べ物や名産品がたくさんあるので、他の県や外国にもっとアピールすれば収入が増えたり、農業をやる人が増えたりすると思います。

現在はどうような方法でアピールしたりイベントを実施したりしているのですか。

知事

聞いてほしいことを聞いてもらった気がします。

私も、知事に就任した時に、青森県にはいい物がたくさんあると思いました。食料自給率という言葉がありますが、青森県の農林水産物はカロリーベースで120%ぐらいです。野菜は250%、魚介類は280%、果物に関しては、リンゴがあるので600%を超えています。しかも、夏季冷涼な気候で農薬を使用する量が少なくて済みますので、青森県には、安全安心でおいしいものがたくさんあります。

この青森県の農林水産物をPRするために考えたのが、「決め手くん」というゆるキャラ



です。「決め手くん」のゆるキャラを14体作り、全国に置いています。名古屋、大阪、福岡の青森県の情報センターや、東京の事務所にも置いています。安全安心でおいしい青森県の農産物、水産物、畜産物や加工品などを全国や世界に売っていくために、「決め手くん」と一緒に「攻めの農林水産業」に取り組んできました。これまでいろいろな場所で青森県のフェアを開催し、知事だけではなく、県の職員や農協の人たちと一緒にPRしたり、「決め手くん」も行って宣伝してきました。その結果、大手量販店との通常取引額は、私が知事に就任した頃は70億円ぐらいだったのが、東日本大震災の前には約4倍の310億円にまで伸ばすことができました。このように、一生懸命努力することによって良い値段で販売できれば、その分青森県にお金が入ってくることになります。

また、台湾や香港など海外にも輸出していて、青森リンゴをはじめ全体で150億円ぐらい輸出しています。しかし、ただ単に海外に物を持って行って売ればいいというものでもありません。おいしさを保った状態で輸送できるルートを作って、代金もきちんと回収することが大事です。特別なフェアやイベントを開催した時だけではなく、普段の日でも、青森県の長芋やゴボウやホタテなどをスーパーやデパートで扱ってもらうことが大事で、通常取引のためのルートを一生懸命開拓してきました。

そのほか、県庁には「まるごとあおもり情報発信チーム」という組織があります。テレビ広告を1本作ると1千万円や2千万円ぐらいのお金がかかり、新聞に広告を出すと300万円ぐらいかかりますが、無料で青森県のいろいろなものを番組や記事に取り上げてもらうために、このチームの職員が、東京のテレビ局や新聞社、雑誌社を回ってPRしています。

さらに、トップセールスといって、知事がセールスする時は、リンゴやホタテ、長芋、ゴボウの絵をプリントしたシャツを着て宣伝しています。今月は、千葉県浦安市の量販店、来月は、九州地方や中国・四国地方の店舗というように、土・日曜日を中心に営業に歩いています。

今週は、県内のスーパーでもPRしますが、「攻めの農林水産業」を進めていくには地産地消が大事です。青森県の人がおいしいと思ってくれたものでなければ、どこに持っていても売れません。青森県の人で、これはいいなと思ったものが、日本だけではなく世界にも通用するようになってきたのです。

皆さんには、ぜひ、地元で採れたものをたくさん食べて、青森県を応援してほしいと思います。

児童4

リンゴの消費量が減ってきているそうですが、給食であまりリンゴが出ないので、リンゴを給食に出す機会を増やせば消費量が増えていいと思います。実現は可能ですか。

知事

とても嬉しいことを言ってくれました。カットしたリンゴをパックにする技術が青森県で開発されましたが、コストをもっと下げることができれば、カットリンゴ以外にも使えるのではないかと思います。

給食には、リンゴ1個だと大きすぎるので、カットしたリンゴを出すようになってきました。その他にも、リンゴのゼリーなども給食に出しています。

ところで、平成24年の1人あたりのリンゴの購入量は年間で3.5キロとなっていますが、29歳以下の人は600グラムしか買っていません。若い人たちは、リンゴの皮を剥くのが面倒だったり、携帯電話やスイーツなどにお金を使ったりして、果物にはあまりお金を使わなくなっているようです。

そこで、県外の小学校や幼稚園の子どもたちに、リンゴの栽培方法やリンゴのおいしさを知ってもらうために、大阪や九州などの小学校や幼稚園に出向いてリンゴの出前授業を行っています。「食」に関する知識を覚えたり、「食」に感謝する心を育むことを「食育」と言いますが、リンゴの食育活動も行っています。

「1日1個のリンゴで医者いらず」と言いますので、皆さんもリンゴを食べてくれたら嬉しいです。

児童5

冬になると雪による事故が多くなるので、事故を防ぐために看板を多く設置したり、防雪柵を多く設置したりすることは可能ですか。

また、雪道での事故はスタッドレスタイヤの性能にも原因があると思うのですが、古いスタッドレスタイヤを履いて車を運転しても処罰する法律がありません。例えば製造から5年以上経った古いスタッドレスタイヤを履けば処罰されるような条例を制定することは可能ですか。

知事

防雪柵は、設置方法を間違えると効果が発揮されないなので、いろいろなタイプの防雪柵を考慮しながら慎重に設置しています。

スタッドレスタイヤは、古くなると確かに滑りやすくなります。滑ると事故を起こしやすくなり、後ろの車に衝突されて、むち打ち症になっても大変です。

県警察本部にも聞いてみましたが、国が法律で規制していないのに、県が条例で、スタッドレスタイヤは5年で交換するといったルールを作って規制するのは難しいとのことでした。本当は、環境問題を解決できるようなスパイクタイヤが開発されればいいなと思っています。しかし、雪が降らない

地域の人たちには、なかなか分かってもらえません。

上北地域県民局長

道路を走っていて吹雪で前が見えなくなると危険なので、道路の脇に防雪柵を建てていますが、防雪柵で雪を止めているのではありません。実は、防雪柵には、角度を斜にした羽が付いていて、この斜めの羽の隙間から風が入って雪を吹き飛ばすような仕組みになっています。その他にも、風の流れを道路に向けて道路の路面の雪を吹き飛ばすようなタイプの防雪柵もあります。



ところで、防雪柵を1m造るために、どのくらいのお金が必要なのか分かりますか。1m造るために20万円くらいかかります。安いものでも10万円くらいですので、100m造るために1千万円もかかります。とてもお金がかかりますが、吹雪いて危険な場所には防雪柵を造っていくようにしています。

また、防雪柵を造らないまでも、スノーポールといって、雪が積もっても道路の脇がどの辺の位置にあるのか分かるようにするために、ライトの光で反射する視線誘導標を設置しています。

そのほかにも、坂道には、砂が入った砂箱を設置して、車が滑って登れなくなった場合に砂をまいて登っていくことができるようにしています。

このように、いろいろな方法で、道路を通行するための安全を確保しています。

一昨年の冬に、横浜町で、吹雪によって車が止まってしまったのは覚えていませんか。約400台の車が吹きだまりにはまって、一晩中、動けなくなってしまったことがありました。その道路には防雪柵がありましたが、通常の間向きと逆に風が吹いたため、道路の雪を吹き飛ばすことができなかったのです。

この時どうしたのかというと、県の車や消防車、除雪車も助けに行けなかったため、その地域の人たちが、道路に止まっている車のところに行って「大丈夫ですか？」と声をかけて、自分の家に避難させたり、ご飯を食べさせたりして、車の中に閉じ込められた人を助けてあげました。

このように、困っている人がいたら、地域の人たちで助けてあげることが大切です。県でも、すぐに助けることができない場合があります。そのような場合は、近くにいる人たちが協力して、助けてあげてほしいと思います。

皆さんも、人のためになるような活動をしてほしいと思います。

知事

地域みんなで助け合ってくれたらありがたいと思います。よろしくお願いします。

児童6

僕は将来、青森県内の小学校の先生になりたいのですが、少子化の影響で採用する数が少なく、先生になるのがとても難しいと聞きました。また、担任の先生の仕事を見ていると、朝早くから夜遅くまで仕事をしていて、昼休みも仕事をしているので、明らかに先生の数足りないと思います。

先生を採用する人数をもっと増やすことはできないのでしょうか。

知事

学校の先生は本当に忙しいと思います。クラブ活動をしたり、夏休みや冬休みの期間は研修を受けに行ったりしています。

そこで、知事ができることとして、少人数学級を実施しています。少人数学級にすると、先生の人数も少し増やせることになります。小学校は1、2、3年生、中学校は1年生を対象に、県の費用で少人数学級を実施しています。



学校の先生も忙しいのですが、皆さんのお父さんやお母さんも一生懸命働いています。朝早くから夜遅くまで働いてくれるので、日本の国はこんなにも良くなったのだと思います。

上北教育事務所次長

七戸町にある上北教育事務所に勤めています。この間、皆さんが算数や社会の勉強をしている様子も見に来ました。

実は、先生の人数は、国で決めています。昔は、1つの教室に児童が50人くらいであったのが、その後45人になり、今は、40人くらいとなっています。それでも、先ほど知事から話があったように、1つの教室で児童が34人や33人までという少人数学級を実施してきており、少しずつ先生が増えるようになってきています。

ただ、小学生の人数が減ってきていてクラスの数も減ってきているので、先生の数もなかなか増えません。それでも、TT（ティーム・ティーチング。1教室の授業を2人以上の教員で学習指導すること。）の先生などがいるように、皆さんの勉強のために、何とか先生を増やそうとしています。



先生の仕事はたいへんですが、皆さんの成長や笑顔のために仕事をしています。皆さんの成長する姿や笑顔を見ることができれば、先生は仕事の疲れを忘れてしまいます。

先生になるためには、幅広く勉強しなければならないので、小学校や中学校では好き嫌いしないで、すべての教科を勉強することが大事です。さらに、国語や算数だったら誰にも負けないように、得意な教科を作ることも大事です。

皆さんには、いろいろな夢があると思いますが、自分の夢に向かっていくことが大事ですので、頑張ってください。

知事

学校の先生になるために、しっかり勉強してください。

それでは、皆さんの中で、お医者さんになってみたい人はいませんか。各学年に2人ぐらいお医者さんになりたいという人がいると嬉しいです。今年は、本県から医学部の合格者を92名も出しました。この間までは、40名ぐらいしか医学部に受かりませんでしたが、お医者さんを目指してくれる人が増えてきました。

青森県の課題として短命県だということがありますが、お医者さんが足りないので病気になってもなかなか診てもらえなかったり、特に産科や小児科の先生、脳外科の先生が足りません。本当にお医者さんが足りないので、頑張って勉強してお医者さんになってください。

今日は、上北地域県民局地域連携部の職員も来ています。この機会に、県庁の職員に質問してみたくはありませんか。

児童7

青森県の特産物のシジミなどをアピールすることは、考えていますか。

上北地域県民局地域連携部職員

上北地域県民局地域連携部の地域支援室で、上北地域の市町村の支援をしています。私が担当している事業の中に、県内の大学の留学生や外国の方に上北管内を旅行してもらい、上北管内の良いところを海外にたくさん情報発信してもらおうといった取組があります。その中で、シジミなど上北地域のおいしい特産物や、奥入瀬溪流などの観光地を紹介しています。

知事

青森県は、シジミがたくさん採れますので、私自身シジミの絵がプリントされたシャツを着て宣伝しています。シジミにはオルニチンといって、お酒を飲んだ後の体に効く成分が入っています。そのような体に良い成分も紹介しながら宣伝しています。

児童 8

青森県の食べ物をたくさんPRしていると思いますが、観光の方でも特に紹介したいという場所がありますか。

企画政策部広報広聴課長

皆さん、白神山地は知っていますか。世界自然遺産に登録されてから、今年で20年になります。この白神山地をどのように歩けば楽しめるのかということをおPRしています。また、今までは、十和田湖に行けば、遊覧船に乗ったり、奥入瀬溪流を歩くという楽しみ方がほとんど



でしたが、最近では、奥入瀬溪流に生えている苔をルーペを使って見て歩く楽しみ方もあります。このように、苔を見に来る女性のことを「コケガール」と呼んでいますが、日本全国から奥入瀬溪流にコケガールに来てもらおうと、PRしています。

また、種差海岸・階上岳地域が三陸復興国立公園として新たに指定されました。新しい国立公園として全国の皆さんに来ていただいて、実際に歩いてもらおうと、コースの整備が進められています。

今年度の県の広報では、観光に関して、白神山地の世界自然遺産登録20周年、三陸復興国立公園として指定された種差海岸・階上岳地域、そして奥入瀬溪流の苔を中心にPRしようと思っています。

【児童代表挨拶】

今日は、僕たちのために上北小学校にお出でくださいまして、ありがとうございました。

僕が印象に残ったのは、三村県知事が、青森県内の観光スポットの特徴を説明してくれたことと、野菜のおいしさを教えてくれたり、野菜を食べるようにみんなに呼びかけていたことです。

十和田湖やその他の観光スポットにも、機会があったら家族みんなで行ってみたいと思いました。また、野菜も毎日残さずに食べられるようになりたいと思いました。

今日は、本当にありがとうございました。

【知事所感】

今日はありがとうございました。

皆さん、にこやかで、伸び伸びとして元気があったので、とても嬉しかったです。お父さんやお母さん、先生たちだけではなく、町の人みんなから愛されて育っているなと思いました。皆さんは、青森県の財（たから）、人財です。

皆さんは、来年の春から中学生です。勉強をしたり、スポーツをしたり、大人に向かって歩いていくことになりますが、この上北小学校で過ごせたことを最高に幸せだと思ってください。これから辛いことがあった時には、子どもの頃に頑張ったことや、楽しかったことを思い出すと、元気が出てきます。「よし！また、やろう！！」という気持ちになります。

一人一人のこれからの幸福な人生を願い、皆さんへの感謝の意味を込めて終わりの挨拶とします。

今日は、皆さんと一緒に学ぶことができ、嬉しかったです。ありがとうございました。

